

(様式3)

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

平成30年度 石動高等学校アクションプラン - 1 -												
重点項目	新学習指導要領に向けた学習指導法の確立											
重点課題	アクティブラーニングを取り入れ「主体的、対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善を目指す。											
現 状	<ul style="list-style-type: none">・新学習指導要領実施に向けて主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要である。各教科・各科目等の特質に応じた授業・指導法の改善の一助とするために互見授業週間を活用する。また、年間を通じてアクティブラーニングを取り入れた授業がなされてきたか年度末に調査を実施する。・商業科の生徒はそれぞれの目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには、高校に入ってから学ぶ商業科目の基礎をしっかりと身に付けた上で、それぞれの検定に合わせて自らの力を向上させていく必要がある。授業においても、生徒の学力を伸ばし、検定取得につながるように、常に効果的な指導を模索し工夫していくことが求められる。検定取得が生徒の学ぶ意欲や進路目標の達成にもつながっている。											
達成目標	<ul style="list-style-type: none">・互見授業週間において各先生方が2回以上の参観をおこなう。・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が、年度当初を50として1年間の工夫・改善率を数値化する。	<ul style="list-style-type: none">・商業科：卒業までに全商主催検定9種目中、3種目以上で1級を取得した生徒数 <table border="1"><tbody><tr><td>(1)簿記</td><td>(6)珠算</td></tr><tr><td>(2)ビジネス文書</td><td>(7)電卓</td></tr><tr><td>(3)ビジネス情報</td><td>(8)英語</td></tr><tr><td>(4)プログラミング</td><td>(9)会計実務</td></tr><tr><td>(5)商業経済</td><td></td></tr></tbody></table>	(1)簿記	(6)珠算	(2)ビジネス文書	(7)電卓	(3)ビジネス情報	(8)英語	(4)プログラミング	(9)会計実務	(5)商業経済	
	(1)簿記	(6)珠算										
(2)ビジネス文書	(7)電卓											
(3)ビジネス情報	(8)英語											
(4)プログラミング	(9)会計実務											
(5)商業経済												
	互見授業100% 授業改善75%以上	10人以上（卒業年度）										
方 策	<ul style="list-style-type: none">・教科にこだわらず互見授業週間に多くの先生方の授業参観を促す。・他校の公開授業の案内やAL関係の各講演会・講習会等の案内をおこない、積極的な参加を促す。	<ul style="list-style-type: none">・朝や放課後の補習授業を実施する。・商業関連部活動を充実させる。・3年生1級未取得者に対する特別受験指導を実施する。・教員の指導力向上のための校内研修会を充実させるとともに、校外で開催されるセミナー等へ積極的に参加するよう努める。										

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活（心身ともに健全な人格の育成）
重点課題	規範意識の向上と規律正しい学校生活の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの普及に伴い、使用ルールやマナーを守らない生徒や依存症の生徒も見られる。 ・携帯電話やパソコンに関するアンケート結果より、携帯電話・スマートフォンの使用時間が23時以降していない率は、平成28年度52.7%、平成29年度51%となった。また、平日3時間以上使用している生徒は、46%となり、長時間使用が、生活のリズムを崩し、家庭学習時間の確保の妨げになっている。 ・昨年度同様に生徒が自ら学校ネットルール4箇条を決定し、働きかけたが、規範意識の低い生徒も多い状況である。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話（スマートフォン）の23時以降の使用しない率
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話で違反した生徒には、携帯電話を預かり、保護者の協力を得ながら、違反者本人に反省を促すと共に、使用に関してのルール、マナーの意識の向上をはかる。 ・イレブンセブン運動を積極的に推進し、携帯電話やパソコンに関するアンケートを年間2回実施で実態を把握し、夜11時以降の使用を控えさせ、ネット依存にならないよう指導を行う。 ・情報モラルやセキュリティの意識の向上を図るために、授業だけでなく学習する機会を増すと同時に教職員も携帯電話に関する知識を深める機会を作り、生徒への指導を充実させる。 ・家庭でのルールの設定やスマートフォンの使用について話し合う機会を持つ等、PTA総会や各学期の保護者会等で保護者への協力を要請する。 ・生徒主体の活動を通じて、生徒自身で考え注意できる環境を作る等指導の充実を図る。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	進路支援（自己実現に向けて生徒自らが努力するための支援の充実）																			
重点課題	進路意識の向上と進路目標の早期設定																			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の進路選択とその実現のために本校独自の様々な進路支援プログラムを行っているが、各プログラムを積極的に自己の進路につなげて考えようとする姿勢が足りなくなっている。 早期に具体的な進路目標が決まらず、進路の目標実現に向けての学習意欲に結びついていない。また、受験に向けた学習への取りかかりが遅い生徒が多い。 																			
達成目標	① 1・2年生：進路目標設定率（2月の進路希望調査までに、以下の目標に対する取り組みの満足度と目標達成した生徒の割合）	② 3年生：希望進路達成率（11月進研模試の第1～第4志望校に進学できた生徒の割合）																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>2年</th> <th>1年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">進路目標</td> <td>進学 志望学科、大学を2つ以内に決定</td> <td>1年 志望学部を2つ以内に決定</td> </tr> <tr> <td>就職 希望業種、職種を決定</td> <td>職業や企業を調べ、希望する職業が言える</td> </tr> </tbody> </table>	学年	2年	1年	進路目標	進学 志望学科、大学を2つ以内に決定	1年 志望学部を2つ以内に決定	就職 希望業種、職種を決定	職業や企業を調べ、希望する職業が言える	<table border="1"> <thead> <tr> <th>進 学</th> <th>就 職</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>志望校への進学が実現(内定)</td> <td>就職が内定(職種の変更は問わない)</td> </tr> </tbody> </table>	進 学	就 職	志望校への進学が実現(内定)	就職が内定(職種の変更は問わない)						
学年	2年	1年																		
進路目標	進学 志望学科、大学を2つ以内に決定	1年 志望学部を2つ以内に決定																		
	就職 希望業種、職種を決定	職業や企業を調べ、希望する職業が言える																		
進 学	就 職																			
志望校への進学が実現(内定)	就職が内定(職種の変更は問わない)																			
	取り組み満足度が90%以上決定した(言える)生徒 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2年</th> <th>1年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進学</td> <td>90%以上</td> <td>70%以上</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>70%以上</td> <td>50%以上</td> </tr> </tbody> </table>		2年	1年	進学	90%以上	70%以上	就職	70%以上	50%以上	達成した生徒が <table border="1"> <tbody> <tr> <td>進学</td> <td>70%以上</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	進学	70%以上	就職	100%					
	2年	1年																		
進学	90%以上	70%以上																		
就職	70%以上	50%以上																		
進学	70%以上																			
就職	100%																			
方 策	○進路支援の方策 本校の進路支援プログラムの事前・事後の進路学習を充実させ、年間を通じて継続的・継続的な進路研究につなげ、進路意識の高揚を図る。 〈1年〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2学期末まで</th> <th>学年末まで</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進学</td> <td>文理選択に向け学問領域を選ぶ</td> <td>学問領域を絞り志望学部を決定する</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>働くことの意義を学ぶ</td> <td>職業を調べ、希望する職業が言える</td> </tr> </tbody> </table> 〈2年〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2学期末まで</th> <th>学年末まで</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進学</td> <td>志望学科を決定する</td> <td>志望校を決定する</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>業種、職種を知る</td> <td>希望業種、職種を決定する</td> </tr> </tbody> </table> (支援プログラム) 進路集会・大学等出張講義・PTA自前講座・進路学習・進路講話・大学訪問・OBと語る会・卒業生と語る会・インターンシップ等		2学期末まで	学年末まで	進学	文理選択に向け学問領域を選ぶ	学問領域を絞り志望学部を決定する	就職	働くことの意義を学ぶ	職業を調べ、希望する職業が言える		2学期末まで	学年末まで	進学	志望学科を決定する	志望校を決定する	就職	業種、職種を知る	希望業種、職種を決定する	○学習支援の方策 <ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習内容や意欲などの実態を正確に把握することにより、進路目標の実現に向けた適切な支援を行う。 個々の生徒の学力や志望校の出題傾向を踏まえて、集団指導（補習・進路集会・進路情報冊子の活用）や全職員による個別指導（教科添削・面接・小論文）の充実を図る。 入試の過去問を採り入れて実力判断をしたり、過年度生の成績と進路の相関関係を照らし合わせるなどして、学習指導、進路指導を効果的に行う。 ○進路支援の方策 <ul style="list-style-type: none"> 本校の進路支援プログラムと個別面談を効果的に利用し、志望校・志望学科を早期に決定する。 (支援プログラム) 進路集会・進路講話・就職ガイダンス等
	2学期末まで	学年末まで																		
進学	文理選択に向け学問領域を選ぶ	学問領域を絞り志望学部を決定する																		
就職	働くことの意義を学ぶ	職業を調べ、希望する職業が言える																		
	2学期末まで	学年末まで																		
進学	志望学科を決定する	志望校を決定する																		
就職	業種、職種を知る	希望業種、職種を決定する																		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	特別活動（学校行事を通して自主的な態度の育成）
重点課題	特別活動に対する主体的参加
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事である石高祭では、クラス活動・各種委員会活動・各部活動などに対して生徒達は意欲的に取り組む姿が見られ、これらの集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築きながら自主性や連帯意識を育んでいる。 ・本校部活動数は運動部13、文化部10あり、部活動加入率は運動部約62.2%、文化部約33.8%、全体で約96%と、多くの生徒が部活動に参加している。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事（石高祭）に対する充実度が80%以上 ② 部活動に対しての充実度や結果に対する満足度が70%以上
	<ul style="list-style-type: none"> ① 4段階評価による3以上が80%以上 ② 4段階評価による3以上が70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を充実させ、代議員会等の適宜開催するなどして、生徒の視点から参画させることで、より多くの生徒が主体的に関われる活動の機会を設ける。 ・部活動登録後、全体計画・活動内容等を部員と話し合い、個人や集団の実態に応じた目標を持たせる。 ・学校行事や高体連並びに高文連主催の各種大会等後にアンケートを実施し、その結果を踏まえ、今後の活動に検討・改善を行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）